国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

「世界の北海道」を目指して
―北海道総合開発計画―

ウポポイ
民族共生象徴空間

令和６年１月１９日
室蘭開発建設部

受賞団体決定！「わが村は美しく-北海道」運動

～第１１回コンクールの優秀賞１２団体、奨励賞１８団体が決定～

北海道開発局は、「わが村は美しく－北海道」運動第１１回コンクールを開催し、選考の結果、**全道６３団体（５６市町村）の応募の中から、**農山漁村における地域の活性化や、個性的で魅力ある地域づくりの優れた活動として、**優秀賞１２団体、奨励賞１８団体を表彰することを決定**しました。

このコンクールは、自然的・社会的・歴史的に特徴のある景観を形成してきた北海道の農山漁村が、より「美しく」あるため、地域の魅力と活力を高めようとする住民主体の活動を見いだし、これを広く発信し、波及させていくことによって農山漁村の振興に寄与することを目指し、平成１３年から、２年に１度開催しています。

今回は、全道１０のブロックごとの審査により、各ブロックから選定された団体（優秀賞１２団体、奨励賞１８団体）を表彰します。

なお、今回表彰された優秀賞の中から、来年度（令和６年度）の大賞審査により、第１１回コンクールの大賞を決定します。

室蘭開発建設部管内からは、当コンクールに７件の応募があり、優秀賞１団体及び奨励賞２団体の合計３団体の表彰が決定しました。（別紙１～３）

表彰授与式は、当建設部管内で実施します。

なお、日時及び場所については、決まり次第、別途、お知らせします。

【「わが村は美しく－北海道」運動とは】

北海道の農山漁村が持つ、かけがえのない地域の資源（景観･地域特産物･人の交流）を守り、次の世代に引き継ぎ、そこに住む人々が誇りを持てる北海道の「わが村」の未来を創っていこう、との想いから生まれた運動です。「地域に住む方々が主体となった地域づくり活動の普及により、北海道の農山漁村全体が豊かになり、活性化をもたらす」ことを基本の考え方とし、地域で活動する団体などを支援しています。

「わが村は美しく－北海道」運動の情報は、以下のホームページに掲載しています。
https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ns/nou_sin/ud49g7000000emhm.html

【問合せ先】　北海道開発局　室蘭開発建設部　電話（ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ）0143-25-7049
土地改良情報対策官　前田　和男（内線 327）
土地改良情報対策官付　農業調査専門官　平間　知幸（内線 273）
室蘭開発建設部ホームページ　https://www.hkd.mlit.go.jp/mr/

【別紙１】

「わが村は美しく ー北海道」運動 とは？

Point

●北海道の農林水産業をより豊かにすることを目指し、平成１３年にスタート
●道内各地で地域資源を活用して地域を活性化しようとする住民主体の活動に対する支援

「景観」の形成

【景観】
地域の特色を活かし、生活と生産に根ざした景観形成活動

魅力ある活力に満ちた 北 海 道

「地域特産物」のブランド化

【地域特産物】
地域で生産される農林水産物及びそれらを主として利用した加工品の生産販売活動

活発な「人の交流」づくり

【人の交流】
地域の魅力を高めるコミュニティづくりに結びつく都市及び地域内外の人たちとの交流活動

- **参加しよう－中心となるのは、地域に住む人々**　「地域の資源」を見つけよう
- **広げよう－活動の輪を大きく、自由に**　地域の個性を競い合い高め合い
- **伝えよう－北海道の「いいもの」を、もっと外へ**　地域住民の努力と行動に光をあて、広く伝えよう

取組

●コンクールの開催　←　「地域資源」を見つけ、「いいもの」を多くの人に伝えます
●地域の魅力を高めようとする地域住民の活動をさらに広く伝えて、その活動を支援し波及させます

第１１回「わが村」運動 コンクール

地域住民の活動を支援する一環として、地域で活動する団体を対象にコンクールを開催しています

活動団体
↓
現地調査 優秀賞・奨励賞の選考　（R5年度）
↓
表彰式
↓
大賞の選考　（R6年度）
↓
大賞表彰式

第10回コンクール 大賞受賞団体

北のなのはな会【安平町】

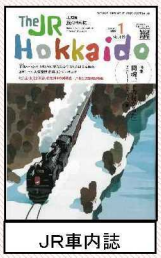
ほんべつ豆まかナイト実行委員会【本別町】

多くの人に伝えるための取組

●ＨＰへ掲載　https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ns/nou_sin/ud49g7000000emhm.html
→活動団体の最新情報を広く発信

●メールマガジンの配信
→活動団体への情報提供
→活動団体の最新情報を発信

●ＪＲ北海道の車内誌
→「The JR Hokkaido」への掲載
（ＪＲ北海道の協力）



JR車内誌

●地域イベントで活動ＰＲ
→地域イベントに参加し団体活動を紹介

札幌大通でのパネル展

●パネル展でＰＲ
（北洋銀行との連携）

●Facebook(ﾌｪｲｽﾌﾞｯｸ)の取組
→活動団体の最新情報を広く発信

Facebookはこちらの
ＱＲコードからご覧頂けます。

【別紙2】

令和６年１月１９日
北　海　道　開　発　局

「わが村は美しく－北海道」運動第１１回コンクールの受賞団体を決定
～農山漁村地域の活性化に貢献する活動を応援しています～

「わが村は美しく－北海道」運動では、平成１３年から２年に１度コンクールを開催しており、今回で１１回目となります。
第１１回コンクールには全道から６３件（団体）の応募があり、審査の結果、優れた活動として優秀賞１２団体、奨励賞１８団体を表彰することとしました。
表彰式は、本日以降、随時、受賞団体の応募先である各開発建設部において行う予定ですので、詳細については、該当する開発建設部土地改良情報対策官にお問い合せください。

〇第１１回コンクールの概要について

１．コンクールの応募状況等について

(1) 応募件数
全道５６市町村から６３件（団体）の応募

(2) 審査経過
▸令和５年１月～令和５年６月：募集
▸令和５年７月～１０月：全道１０ブロック※での現地調査
（ブロック審査委員会による全応募団体の調査）
▸令和５年７月～１１月：ブロック審査委員会での審査
（現地調査の結果から受賞団体を選考）
※各開発建設部の所管を１ブロックとしている。

２．受賞団体について

(1) 優秀賞※（北海道開発局長表彰）［１２団体］
※優秀賞：ブロック審査により、活動が優秀と認められた団体を選定。
- 特定非営利活動法人　山のない北村の輝き（岩見沢市）
- 元気村・夢の農村塾（深川市、妹背牛町、沼田町、北竜町、秩父別町）
- にじいろファーム（七飯町）
- 美国・美しい海づくり協議会/余別・海 HUG くみたい（積丹町）
- 名寄市立大学援農ボランティアの会（名寄市）
- ニサナイ大地の会（むかわ町）
- 北海道中標津農業高等学校　マネージメント研究班（中標津町）
- 北海道帯広農業高等学校　食品科学科　地域資源活用分会（帯広市）
- ピロロツーリズム推進協議会（広尾町）
- 合同会社　びほろ笑顔プロジェクト（美幌町）
- フレッシュ市場「花菜夢」（遠別町）
- 社会福祉法人稚内市社会福祉事業団　就労継続支援Ｂ型事業所　稚内市北光園（稚内市）

（受賞団体名は順不同です）

【別紙2】

(2) 奨励賞※（各開発建設部長表彰）　［１８団体 ］

※奨励賞：ブロック審査により、将来性や継続性から奨励すると認められた団体を選定。

◇札幌ブロック［３団体］
- 沼田町産直グループ　愛菜ママ（沼田町）
- 疏水ほっかい愛護連絡協議会（岩見沢市）
- 一般社団法人　恵庭青年会議所（えにわハッピーハロウィン実行委員会）（恵庭市）

◇函館ブロック［２団体］
- ハコダテフィッシャーマンズ（函館市）
- 一般社団法人　福島町まちづくり工房（福島町）

◇小樽ブロック［１団体］
- しりべし女子会（後志管内）

◇旭川ブロック［２団体］
- 辰巳農園（上川町）
- JA ふらの女性大学（富良野市、上富良野町、中富良野町、南富良野町、占冠村）

◇室蘭ブロック［２団体］
- 壮瞥町オロフレ地熱利用野菜組合（壮瞥町）
- 合同会社　自然農業社（壮瞥町）

◇釧路ブロック［１団体］
- みんなの景観なかしべつプロジェクト（中標津町）

◇帯広ブロック［３団体］
- 株式会社　地恵贈（池田町）
- 北海道本別高等学校　豆乳クレンジングジェル班（本別町）
- 北海道士幌高等学校　乳加工専攻班（士幌町）

◇網走ブロック［２団体］
- 株式会社　滝上町和ハッカ・ラボ（滝上町）
- つべつ豆のわ！！プロジェクト（津別町）

◇留萌ブロック［１団体］
- 乳製品加工研究会「美留来のゆめ」（天塩町、幌延町、遠別町）

◇稚内ブロック［１団体］
- 北海道豊富高等学校ボランティア部（豊富町）

（受賞団体名は順不同です）

【別紙３】

地域のこれからについての話し合いの様子

「わが村は美しく―北海道」運動第11回コンクール応募団体

ニサナイ大地の会
【むかわ町】

若い世代が将来も地域を担っていける姿を目指す

【はじまりは？】

農業の担い手対策が必要な地区などをモデル地域に選定して、５、１０年後の地域農業について検討を重ねながら農業を核とした支え合う地域づくりを段階的に推進するという、町の「地域づくりモデル事業」に呼応したのがきっかけで発足しました。

はじめに会員みんなで話し合いを行い、地域が目指す未来予想図としてのニサナイビジョンを作成し、話し合いの中で前期（今すぐ）、中期（５年以内）、後期（将来）に分け、いまできることから取組を進めています。

【おもな活動】

ニサナイ地区の環境美化から取組を進めており、周辺清掃や花壇整備をはじめ、隣接する道道沿いの農地周辺の草刈りや清掃など地域の美化を進めています。そのほか、直売所や穂別地域内の博物館やキャンプ場等でニサナイマップを配布することにより地域をＰＲする取組やエゾフクロウを守るために巣箱を設置する取組も行っています。

また、ニサナイビジョン構想は各層（経営主・女性・青年）で役割分担し話し合っており、地域でとれる農産物を使った加工品開発や、講師を招いての勉強会の開催について検討を行っています。

会員が運営する直売所では、地域で採れた新鮮な野菜や珍しい野菜等の販売を行っています。

ニサナイ会館前の花壇整備

【ここが自慢】

【自然環境の復活を目指して】

「ニサナイ大地の会」では、ニサナイビジョンを作成し、地区環境美化をはじめとする活動により、今後、他の地域にも波及することを願い活動を展開しています。

景観・自然環境では、ニサナイ地区と隣接する道道沿いの圃場周辺の草刈、清掃の取組を実施しています。

ニサナイ会館（ニサナイ大地の会活動拠点）などの周辺清掃、花壇整備の取組を実施し環境美化に取り組むとともに、自然環境の維持を目指し「エゾフクロウ（森の守り神）が営巣できる自然環境」を後世に繋いで行くため、巣箱を設置する取組を実施しています。

フクロウの木工品と巣箱設置の様子

連絡先

代 表 者 名 ：中澤　浩さん／設立：平成28年／会員：25名

住　　所 ：勇払郡むかわ町穂別４５１番地３

電 話 番 号 ：0145-45-3306

Ｆ　Ａ　Ｘ ：0145-45-3310

Ｅ－ｍａｉｌ：

Ｕ　Ｒ　Ｌ ：

【別紙３】

自然豊かな農村環境で有機農法による農産物を栽培

「わが村は美しく一北海道」運動第11回コンクール応募団体

合同会社自然農業社

【壮瞥町】

農福連携による有機農業の実践

【はじまりは？】

自然農業社は平成27年に壮瞥町から認定農業者として認定され「自然にならい　活かして育てる　会社でありたい　作物も私たちも」を企業理念に活動しています。

設立時から障がいのある方の自立を支援する就農継続支援A型事業所の指定を受け、障がいの種類を問わず多くの障がいのある方々を雇用していますが、多様な仕事がある農業分野では、それぞれの障がいの特性に合った仕事を見つけやすく、利用者は自分の特性にあった仕事を自分の持ち場としてやりがいを持って働いています。

【おもな活動】

有珠山・洞爺湖の近くの自然豊かな農場（約11ha）において、ズッキーニやタマネギ、ニンニク、大根などの野菜及び豆類を有機農法による生産により農福連携を実践しています。

熟成黒ニンニクや切り干し大根、乾燥ごぼう、乾燥たまねぎの製造販売など６次産業化の取組で冬期間の作業を創設し、農産物加工販売を通年で行い、消費者へ安全・安心なものを届けています。また、切干大根を地元の給食センターで利用してもらうなど、地域に根差した活動となってきています。

有機栽培で生産された農産物を使った加工食品

【ここが自慢】

【美味しく安全・安心な農産物や加工品の生産】

自然農業社では農産物の有機JAS認証を取得しています。農薬、化学肥料、除草剤は一切使用せず、質の高い有機肥料を施し微生物から小動物に至るまで多くの生き物が生息できる環境を作ることにより、自然の生態系を活かした農業を目指して周辺の環境景観にも配慮しています。そうして生産された農産物や加工品は、美味しく安全・安心であると消費者の方々から評価を頂いており、「自然農業社」ブランドとして販売しています。

また、2021年から新たにビーツやさつまいもの生産にも取り組んでおり、今後、生産を拡大していきたいと考えています。

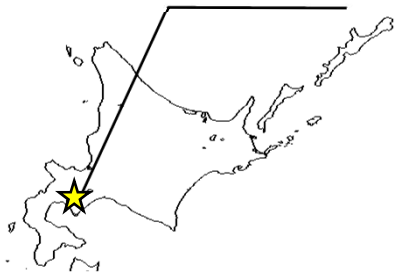
有機農法で栽培している農産物

連絡先

代表者名　：小田大介さん／設立：平成26年／会員：30名
住　　所　：有珠郡壮瞥町字立香92番地
電話番号　：
ＦＡＸ　：0142-82-3254
Ｅ－ｍａｉｌ：
ＵＲＬ　：http://www.sizen-agricompany.com/

【別紙３】

壮瞥町



２月上旬から８月中旬まで出荷可能な「オロフレトマト」

「わが村は美しく―北海道」運動第11回コンクール応募団体

壮瞥町オロフレ地熱利用野菜組合

【壮瞥町】

温泉熱活用によるクリーン農業と「オロフレトマト」のブランド化

【はじまりは？】

温泉熱を利用した施設野菜の生産を目的に設立し、栽培体系及び栽培管理方法の統一、調整、共選の一元集出荷を図るとともに生鮮野菜の安定供給と省エネルギー化を推進しています。

活火山である有珠山の近くのオロフレ峠の名前からその名がついた「オロフレトマト」は、温泉熱を活用して何か出来ないかという発想のもと、園芸施設内に温泉熱を取り込むことで栽培が始まりました。

【おもな活動】

温泉熱を利用して栽培される「オロフレトマト」は、害虫の少ない冬期間に栽培されるため、通常の栽培と比較して、農薬を減らすことができます。

また、トマトの収穫が終わった後に、緑肥を栽培することで化学肥料の量も減らしており、平成16年には減農薬・減化学肥料栽培の「YES！clean」の認証を受けており、クリーンで安心・安全な栽培に取り組んでいます。

地熱利用しているハウス団地

【ここが自慢】

【再生可能エネルギーによる冬季栽培】

近隣の温泉から約65℃のお湯をハウス内のチューブに引き、チューブ内のお湯からの放熱により、冬季の栽培を可能としています。化石燃料を使わず、温泉熱を利用することによりクリーン農業を通じた農産物のブランド化を図ると同時に、カーボンニュートラルに寄与し環境負荷軽減に取り組んでおります。

また、道内では早い２月上旬からの出荷が可能なため、付加価値向上にもつながっています。

地熱利用しているハウスの内部

連絡先

代表者名：新藤　吉美さん／設立：昭和55年／会員：7名

住　　所：有珠郡壮瞥町

電話番号：

ＦＡＸ：

Ｅ－ｍａｉｌ：

ＵＲＬ：

【別紙３】

こだわり米の収穫

「わが村は美しく一北海道」運動第11回コンクール応募団体

壮瞥町こだわり米を作ろう会

【壮瞥町】

「こだわり」の心をこめて作るお米

【はじまりは？】

大規模生産が進む北海道の稲作において、「大きくできないからこそ食味にこだわろう」という思いで、米作りに励むのが「壮瞥町こだわり米を作ろう会」です。

お米が日本の主食ではなくなってきていますが、私たちのお米を食べてもらうことで、”お米ってやっぱりいいな”と思ってもらいたい。そのため、美味しいお米を作ることだけに重きを置いた生産を開始。消費者が喜んでくれることを第一に考え「食味を追求した」こだわりのお米を栽培しています。

【おもな活動】

毎月1回、技術講習会を開き、苗の植える時期や、田植え、水管理などを再確認する機会を設け、厳しい土壌管理方法や、施肥、農薬散布の回数の制限などを話し合い、”壮瞥町のお米”をもっとたくさんの人に食べてもらうために努力を重ねています。

安心・安全で美味しい低タンパクの米づくりに挑戦する「壮瞥町こだわり米を作ろう会」では独自の厳しい品質基準を設け、基準を満たしたお米だけを「そうのみのり」としてお届けしています。

「そうのみのり」

【ここが自慢】

【真心込めて、丹精込めて「美味しさ」で勝負】

壮瞥町全体の水稲作付け面積は113ha。道内全体から見ても約0.1％と小さな産地。その中で、45haを保有している「壮瞥町こだわり米を作ろう会」では、昭和新山や洞爺湖がもらたす素朴な自然のめぐみの中、農薬や化学肥料の使用を控え「こだわり」の心をこめたお米を生産しています。

栽培期間中の化学農薬・肥料を抑え、安全・安心な“YES！clean”の認証を受けて、売れる米づくりを推進し、生産者や地域、ほ場でバラツキのある収量・品質についての年次変動を減らし、高品質米(タンパク含有量6.8％以下、1等米)としてブランド化に努めています。

お米の状況を確認

連絡先
代 表 者 名 ：岩倉　賢一さん／設立：平成16年／会員：9名
住　　所 ：有珠郡壮瞥町
電 話 番 号 ：
Ｆ　Ａ　Ｘ　：
Ｅ－ｍａｉｌ：
Ｕ　Ｒ　Ｌ　：

【別紙３】

地域農産物の直売（さるくる）

「さるくる」のキャラクター
エゾユキウサギのうさっぷー

「わが村は美しく―北海道」運動第11回コンクール応募団体

合同会社うさっぷカンパニー × ファームインひだか くるみちゃんハウス【日高町】

地域農産物の販売と体験型交流による地域活性化

【はじまりは？】

道東道の開通により日高地域に立ち寄る観光客が激減したため、日高地域の個人商店が次々と閉店し地域に元気がなくなってしまっていました。また、地元野菜の直売所も閉店が決まり、農家さんの野菜出荷先が無くなると地域の衰退に拍車がかかることを危惧して「うさっぷカンパニー」を立ち上げ、道の駅（樹海ロード日高）内に農産物等を扱う「ショップ＆コミュニティスペース さるくる」の運営を始めました。

民宿「ひだかくるみちゃんハウス」では、宿泊する人が日高地域の自然の良さを知り、地域の人たちとの交流がもてる宿として地域の案内や米作り体験などを行い、地域内外の交流の場を設けています。

【おもな活動】

「うさっぷカンパニー」では、「さるくる」において地域の農産物などの販売とともに観光客への周辺観光情報の提供や体験事業などを行っています。また、「ひだかくるみちゃんハウス」では、地域と町外の人たちの交流として田植え、稲刈り、はさ掛け、脱穀を行う「米作り体験」などのイベントを毎年開催してます。

店舗「さるくる」があるからこそ体験型の交流が続けられるとともに、地域の特産物として販売ができています。

稲刈りの様子

【ここが自慢】

【「さるくる」を通じた地域活性化】

日高地区は過疎化が進み農家さんは小規模になり、野菜の出荷先は「さるくる」だけとなっています。

地元農家の方々は「さるくるがあるから」と農家を続け出荷することを楽しみにしてくれています。開店前後に野菜を持ってきた地元農家さんや地域の人たちが楽しそうに話をするなど、地域の交流の場にもなっており、活性化にも繋がっています。

「ひだか くるみちゃんハウス」では、米作り体験を主催しており、町内外から親子連れが参加し、消費者や子供たちとの体験型の交流活動を行うことで、農村景観と農産物を結び付け、日高地域の米のおいしさや農業の大変さ、楽しさを伝えています。米作り体験で作ったお米は、参加者で買い取るほか、「さるくる」で「はさ掛け米」として販売しており、地元特産物となっています。

連絡先

代 表 者 名 ：横山　敏雄さん／設立：令和2年／会員：35名

住　　所 ：沙流郡日高町本町東1丁目298-14
（道の駅樹海ロード日高　さるくる）

電 話 番 号 ：090-2069-6217（さるくる）

Ｆ　Ａ　Ｘ ：050-3457-8333

Ｅ－ｍａｉｌ：usap3696@gmail.com

Ｕ　Ｒ　Ｌ ：https://www.facebook.com/usapsarukuru/
https://blog.goo.ne.jp/sarugawa200941-ay

さるくる

【別紙３】

絞りたての生乳を使用したチーズ

家族のように育てている牛たち

「わが村は美しく―北海道」運動第11回コンクール応募団体

チーズ工房1103 × 広富農事組合法人 倶里夢(くりーむ)牧場

【日高町】

「お口の中がほっこり 幸せになるチーズと持続可能な酪農」を目指して

【はじまりは？】

「チーズ工房1103」は、日高町の山間部にある「倶里夢(くりーむ)牧場」で家族のように育てた牛たちの生乳を使っています。その甘くて濃厚で、飲む人を幸せにする牛乳をチーズにしてお届けしたい。そんな思いからチーズ工房を作りました。私たちが目指すのは「お口の中がほっこり幸せになるチーズ」。小さな工房では一度に作れるチーズはほんの僅かなので、たくさん作ることはできませんが、一つ一つ心を込めて作っており、おいしいチーズができています。

「倶里夢牧場」は、21年前に３つの牧場が１つとなって新たに設立した牧場で、倶里夢の倶は「仲間」、里は「故郷」、そして「夢」、そんな意味が込められています。

【おもな活動】

「倶里夢牧場」は、高齢化や後継者不足を解消し、遊休地を有効活用しようと設立し、こだわりの餌により牛を飼い、生乳を生産しています。

「チーズ工房1103」では、倶里夢牧場の生乳を原料に、搾りたての生乳の甘さや濃厚さが感じられるチーズを手作りし、特産品化に繋げています。

また、農業高校の視察の受入や、消費者対象のチーズセミナー、チーズ作り体験などにより、食育活動と消費者との交流により農村の良さを伝え、地域の振興に取り組んでいます。

倶里夢牧場メンバー

チーズによる食育と交流

【ここが自慢】

【地域特産品を使ったチーズ】

「倶里夢牧場」では、良質な牧草を作り通年安定した餌を与えることで、健康な牛を育てており、クリーンで安全で美味しい牛乳を提供し続けています。地域の農家の法人化により遊休農地も活用しており、農業生産だけではなく農村景観を守ることにも繋がっています。また、新規就農の夢を持つ方のサポートも行っています。

牧草の収穫

「チーズ工房1103」では、日高昆布を使用した日高町ならではのチーズや、日高町推奨品の「ばばの味噌」とコラボした商品【味噌チー】も作っており、地元×地元のW効果により日高町の認知度向上にも繋がっています。

地域特産品を使用したチーズ

連絡先

代 表 者 名 ：伊藤　拓弥さん／設立：令和3年／会員：15名

住　　所 ：沙流郡日高町富川東6丁目11-7

電 話 番 号 ：050-1091-4099

Ｆ　Ａ　Ｘ ：050-1091-4099

Ｅ－ｍａｉｌ：cheeseworkshop1103@gmail.com

Ｕ　Ｒ　Ｌ ：https://1103cheese.jp/
https://www.cream-farm.com/

チーズ工房1103

【別紙３】

小学生を対象とした米作り体験

「わが村は美しく―北海道」運動第11回コンクール応募団体

姉富東ふるさと守り隊

【浦河町】

誰もが住んでみたい豊かな美しい農村景観づくり

【はじまりは？】

農村地域の過疎化・高齢化により、水路や農地が織りなす美しい景観の荒廃が懸念されるようになりました。

水路や農地など先人から受け継がれたかけがえのない財産を、地域の共有財産として次の世代へ引き継ぐことは私たちの使命と考えています。

水路や農地と調和しながら夏にビオラやマリーゴールド等が咲き、秋には「はさ掛け」した稲が黄金色にたなびき、サラブレッドが牧場を駆けている日本でも特徴ある農村風景を守っていくことを目標としています。

【おもな活動】

農地や水路の管理保全を行う水利組合を中心に、関係する姉茶・富里・東栄の自治会、小学校等で構成している団体で、誰もが住んでみたい豊かな美しい農村になるような取組として「小学生を対象とした米作り体験や収穫祭」「女性を中心とした花の植栽による景観形成」を行っています。

また、活動参加者の集合写真などを掲載したカレンダーを毎年作成・配布し、啓発・普及活動を行っています。

毎年作成しているカレンダー

【ここが自慢】

【地域住民が共同して取り組む景観維持活動】

美しい農村景観づくりのため、地域の草刈りや集会所等に花を植栽するなど、地域の人々が協力し合いながら景観維持などの共同作業に取り組み、地域の住民が景観を意識するようになりました。

また、地元小学生が田植えから生育観察、稲刈り体験、収穫祭までの米作り体験に参加することで、農地や水路の重要性や食の大切さを学ぶことができています。

これらの活動をとおして農業と農村の良さを伝えています。

花の植栽による景観形成活動

連絡先

代 表 者 名 ：伊丸岡 順さん／設立：平成19年／会員：109名
住　　所 ：浦河町荻伏町15番地
電 話 番 号 ：0146-25-2152（担当者：西）
Ｆ　Ａ　Ｘ ：0146-25-3144
Ｅ－ｍａｉｌ：urakawa-kairyoku@amber.plala.or.jp
Ｕ　Ｒ　Ｌ ：